

財政政策と金融政策の連携 —2000年代以降日本のケース—

宮尾 龍蔵

【要旨】

本研究の目的は、2000年代以降我が国の財政政策と金融政策の連携・協調について実証的に考察することである。まず政策連携を行うための制度的な枠組みおよび政策論争面での議論を確認する。2000年代に入り、政府と日本銀行の政策連携の枠組みはより整備され、経済財政諮問会議などの場を通じてより緊密な意思疎通が図られてきたことが示される。政策論争面では、財政政策と金融政策の協調に関連する主な議論を紹介する。次に、定型的な分析アプローチ（構造ベクトル自己回帰モデル）を用いた実証分析を行い、政策連携に関する含意を導き出す。分析の結果、財政支出ショックに対して金融政策変数が緩和方向に反応し、特にリーマンショック後の期間における政策協調が示唆される。財政支出ショックのより高い景気刺激効果も示され、総じて、財政政策と金融政策の連携が進むことをプラスに評価する結果が得られた。